



認証番号0011660



株式会社 奥野組

2021年度 環境経営レポート

(対象期間：2021年7月1日 ~ 2022年6月30日)



工事現場見学会



令和2年度吉井川上流河道整備工事



令和2年度小田川付替締切堤上流部第2築堤工

発行日：2022年8月5日(金)
改定日：2022年9月20日(火)

目 次

	ページ数
1 ご挨拶	2
2 経営理念と環境経営方針	3
3 組織の概要	4
4 認証・登録の対象組織・活動	4
5 事業や製品(商品)の紹介	4
6 環境経営組織図及び役割・責任・権限	5
7 環境経営目標（2021年度～2023年度）	6
8 主な環境負荷の実績（2019年度～2021年度）	6
9 環境経営目標及びその実績	7
10 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに次年度の取組	8～12
11 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無	13
12 緊急事態対応訓練の実施	14
13 代表者による全体の評価と見直し・指示	15
14 今年度の奥野組の取り組みと紹介	15～17

1. ご挨拶

当社は、1946年に創業、地域の皆様のご支援の下、昨年2021年で創業76年を迎えました。道路、河川など公共インフラをおこなっています。現在は老朽化に伴う維持修繕工事も重要な仕事となりました。岡山三大河川である高梁川、吉井川、旭川や百間川、小田川の堤防工事や河川維持工事を主に手掛けております。

2021年度の経営方針として建設現場における無事故無災害はもちろん健康経営を掲げ安全衛生活動に積極的に取り組んでおります。国土交通省中国地方整備局の工事評価点80点以上の獲得、黒字経営の維持、健康経営優良法人の認定取得、岡山県BCP認証取得、SDGs活動の検証、10年ビジョンの策定、社員個人の成長を目標に活動します。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響をうけ、昨年度は地域の方と交流する機会があまりなく、思うように活動ができませんでした。今年度は地域の方と交流する機会も少しずつ増えていくことを願っています。また、平成30年西日本豪雨による真備町の水害は大きな傷跡を与えました。当社は、再度災害防止を図るための「真備緊急治水対策プロジェクト（ハード対策）」にたずさわっています。

地域の方々が長期的に安全に安心して暮らせるサステナブルな町づくりにたずさわり、日々安全と環境に配慮した施工を目指します。

代表取締役 奥野 一三

2.経営理念と環境経営方針

<経営理念>

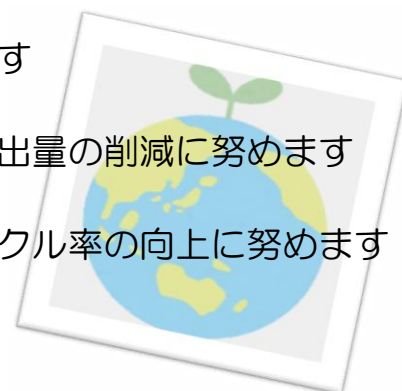
- 地域により安心・快適な環境を創造します
- 次の世代に誇れる「もの」を提供します
- いのちを大切にし、ともに幸せを目指す企業です

<環境経営方針>

エコアクションを取り組むにあたりこの理念をもとに、環境負荷の削減、環境保全を考えた施工を通じて継続的改善に取り組みます。また、社員の健康と地域の安全を守る企業を目指してまいります。

環境行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます
3. 廃棄物の発生抑制につとめ、建設副産物のリサイクル率の向上に努めます
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます
5. 資料、添付書類のペーパーレス化に取り組み、紙の削減に努めます
6. ICT、IoTにより生産性と環境保全を両立させる施工に取り組みます
7. 積極的な環境活動で地域に貢献します
8. 環境経営と健康経営を経営戦略の一貫として取り組みます
9. ハイブリッド車の導入に努めます
10. 本方針を全社員に周知徹底いたします



制定日：2016年6月30日
改定日：2021年7月1日

代表取締役

奥野 一三



3. 組織の概要

- 名称及び代表者名
株式会社 奥野組
代表取締役 奥野 一三
- 所在地
本 社 岡山県岡山市北区北方一丁目1番6号
原資材置き場 岡山県岡山市北区原317番1号
- 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
環境管理責任者 総務部 山野井 祥子
担当者 総務部 竹内 栞
TEL : 086-222-7530
FAX : 086-232-0800
E-mail : somu@okunogumi.co.jp
HP : http://okunogumi.com/
- 事業内容
総合建設業
- 事業の規模
売上高 105,700万円 (2021年度)

	本 社	原資材置き場	合計
従業員	19名	1名	20名
延べ床面積	48.46㎡	1,168.44㎡	1,216.9㎡

- 環境活動期間 7月～翌年6月

4. 認証・登録の対象組織・活動

- 登録組織名 株式会社 奥野組
- 対象事業所 本社、原資材置き場
- 活 動 総合建設業



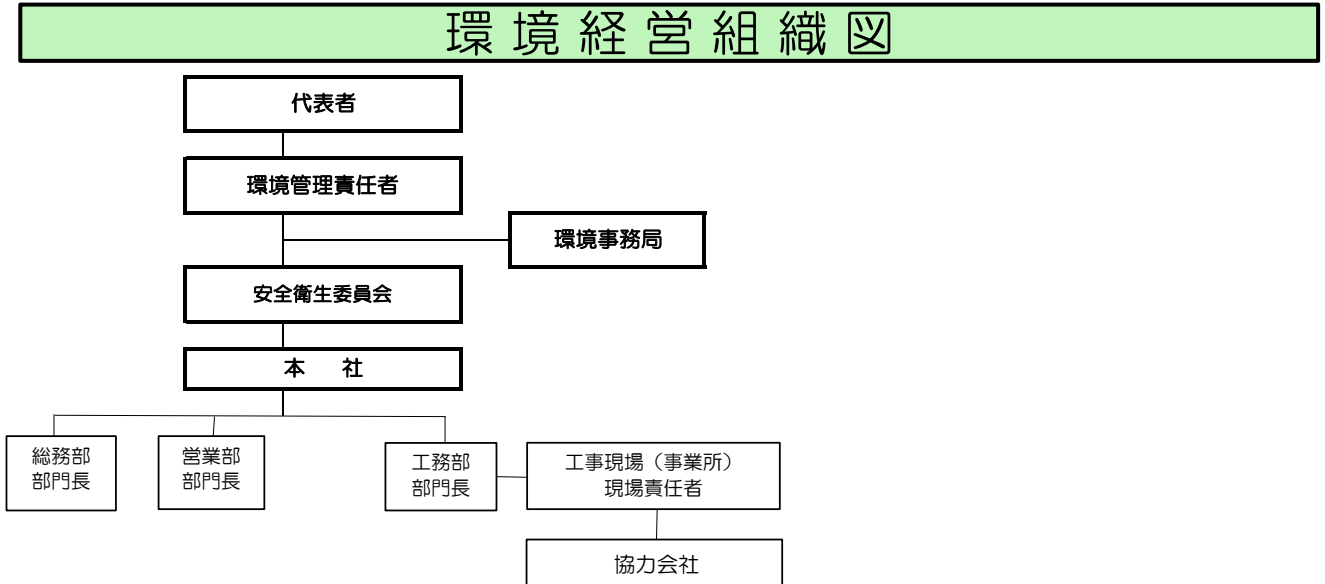
5. 事業や製品（商品）の紹介

国土交通省、岡山県、岡山市を受注先とする公共工事を主に施工しております。特に旭川、高梁川、吉井川などの維持工事、堤防工事を多く手掛けており、近年多発する河川災害発生による堤防の復旧や補強工事の施工を通して地域の安全と防災に関わっております。

また生産性と環境保全を両立させるICT施工に取り組んでいます。



6. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境経営目標・環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 環境経営目標・環境経営計画書を確認 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営計画の実施結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境経営計画の実績集計 環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 環境教育訓練計画の作成と実施の管理 環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付）
安全衛生委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標、環境経営計画書の審議 環境経営の実施状況の確認・評価・周知
各部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な教育訓練の実施、手順書の見直し、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

7. 環境経営目標（2021年度～2023年度）

項目	単位	基準値 (2020年度 実績)	3年間の目標		
			2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	67,365	66,691(△1%)	66,355(△1.5%)	66,018(△2%)
■電力使用量の節減	kWh	20,784	20,576(△1%)	20,472(△1.5%)	20,368(△2%)
■ガソリン使用量の節減	L	16,230	16,068(△1%)	15,987(△1.5%)	15,905(△2%)
■ハイブリッド車の導入	台	1	1台以上	1台以上	1台以上
■LPG使用量の節減	m ³	45.76	45.3(△1%) (実績 426.00)	421.74 (2021年度実績の△1%)	417.48 (2021年度実績の△2%)
■軽油使用量の節減	L	6,024	5,964(△1%)	5,934(△1.5%)	5,904(△2%)
■一般廃棄物の削減	kg	1,685	1,668(△1%)	1,668(△1%)	1,668(△1%)
■産業廃棄物の適正管理	t	3,404	3,370(△1%)	3,370(△1%)	3,370(△1%)
■建設リサイクルの推進	%	100	100	100	100
■水使用量の削減	m ³	72	71(△1%)	71(△2%)	71(△3%)
■現場の生産性向上と環境保全を両立した施工の実施	%	100	100	100	100

※二酸化炭素排出係数 0.677 kg-CO₂/kWh 中国電力の2019年度の調整後の係数

※負荷の実績は工事現場を含む

※ペーパーレス・紙の削減については一般廃棄物の削減への取組の一貫として

印刷物の残部がでないよう最小限に抑える。また、会議資料のパワーポイント化を進めることとする

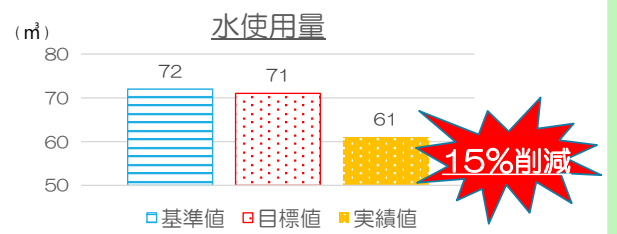
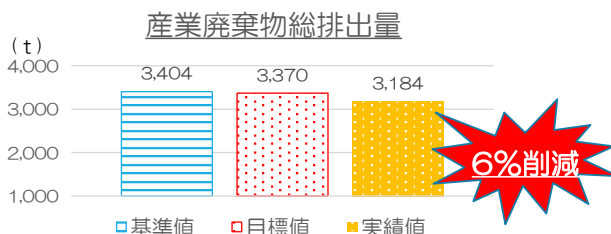
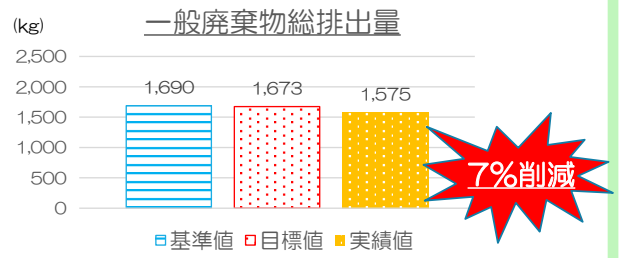
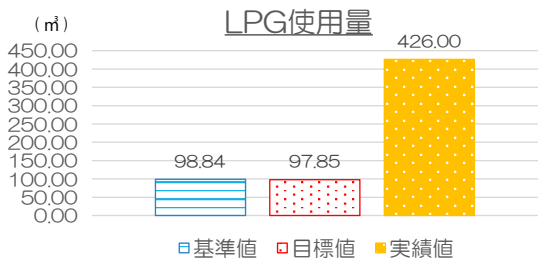
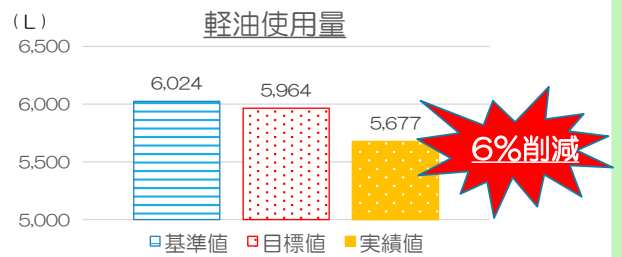
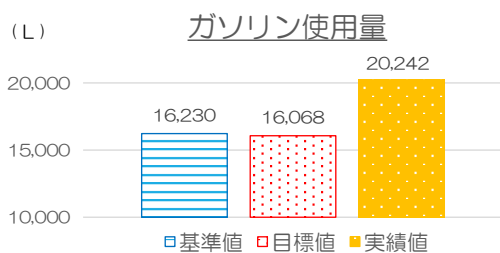
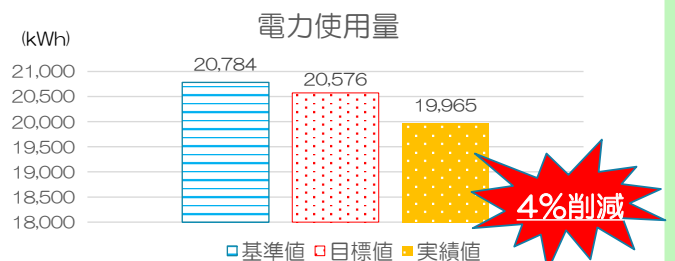
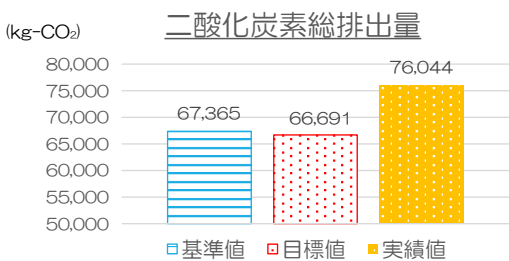
※化学物質は使用していないため目標に設定していない

8. 主な環境負荷の実績（2019年度～2021年度）

項目	単位	2019年度	2020年度	2021年度
電力使用量	kWh	21,010	20,784	19,965
ガソリン使用量	L	16,616	16,230	20,242
軽油使用量	L	2,996	6,024	5,677
LPG使用量	m ³	—	45.76	426.00
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	60,503	67,365	76,044
一般廃棄物総排出量	kg	2,590	1,691	1,573
産業廃棄物の適正管理	t	1,200	3,404	3,184
水使用量	m ³	51	72	61

9. 環境経営目標及びその実績

項目	単位	基準値	2021年度		評価
	基準年度比	(基準年)	(目標)	(実績)	
電力使用量の節減	kWh	20,784	20,576	19,965	○
	基準年度比	2020年度	△1%	△4%	
ガソリン使用量の節減	L	16,230	16,068	20,242	×
	基準年度比	2020年度	△1%	+25%	
軽油使用量の節減	L	6,024	5,964	5,677	○
	基準年度比	2020年度	△1%	△6%	
LPG使用量の節減	m ³	45.76	45.30	426.00	×
	基準年度比	2020年度	△1%	+831%	
二酸化炭素総排出量の節減	kg-CO ₂	67,365	66,691	76,044	×
	基準年度比	2020年度	△1%	△7%	
一般廃棄物の削減	kg	1,685	1,668	1,573	○
	基準年度比	2020年度	△1%	△7%	
産業廃棄物の適正管理 (数値目標は参考とする)	t	3,404	3,370	3,184	○
	基準年度比	2020年度	△1%	△6%	
建設リサイクルの推進	%	100	100	100	○
	基準年度比	2020年度	—	—	
水使用量の削減	m ³	72	71	61	○
	基準年度比	2020年度	△1%	△15%	
現場の生産性向上と環境保全を両立した施工の実施	%	100	100	100	○
	基準年度比	2020年度	—	—	



10. 環境経営計画の取組結果とその評価、並びに次年度の取組

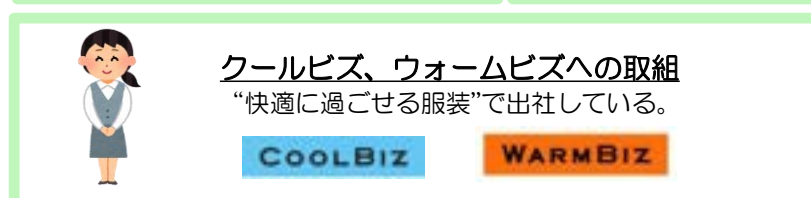
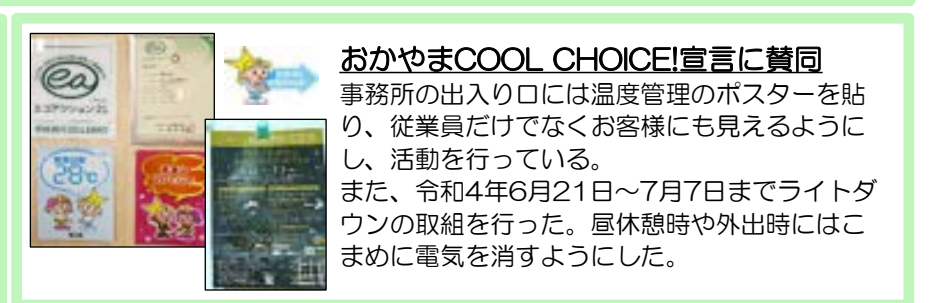
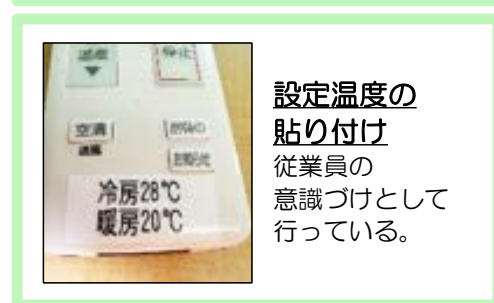
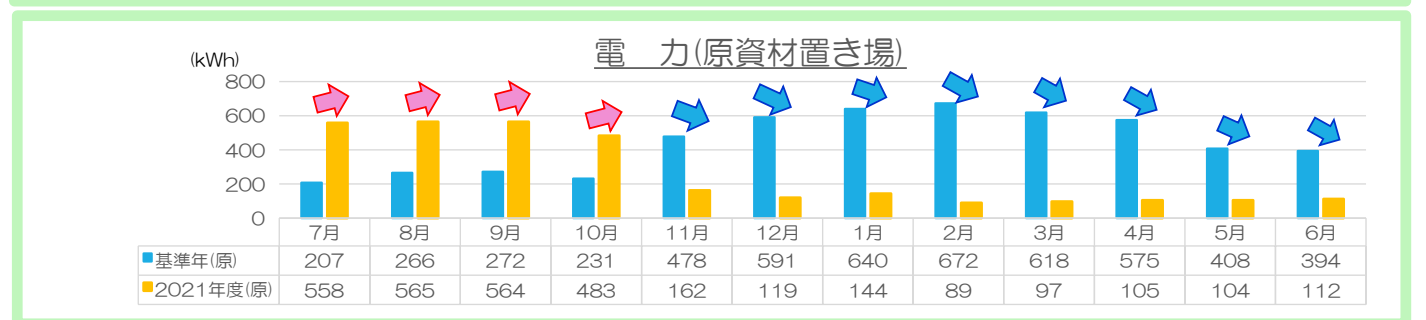
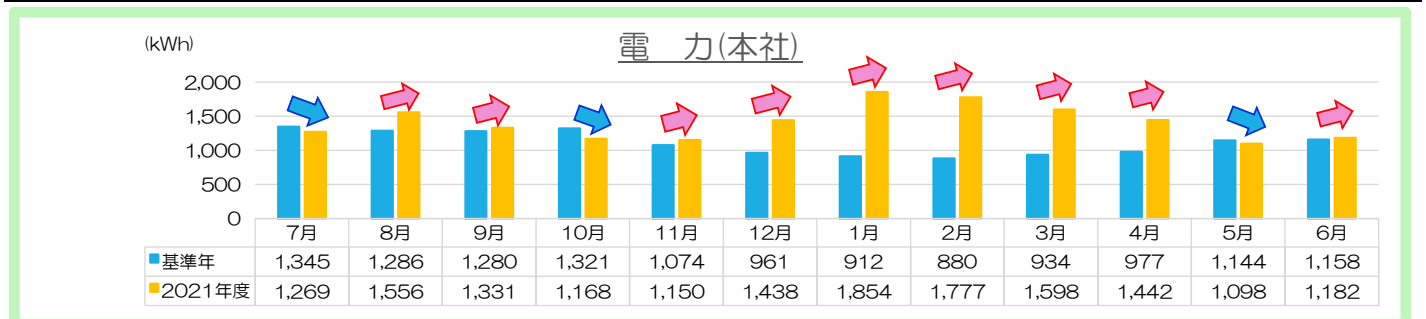
評価方法

数値目標：○達成 ×未達成

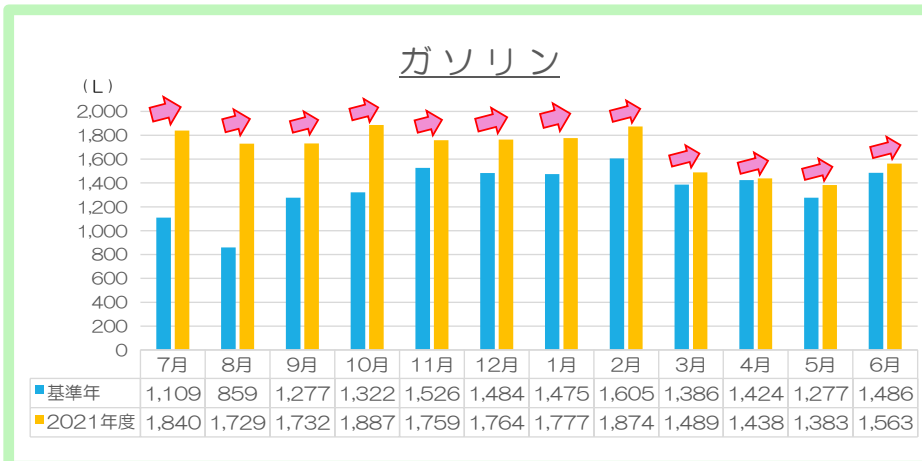
活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった



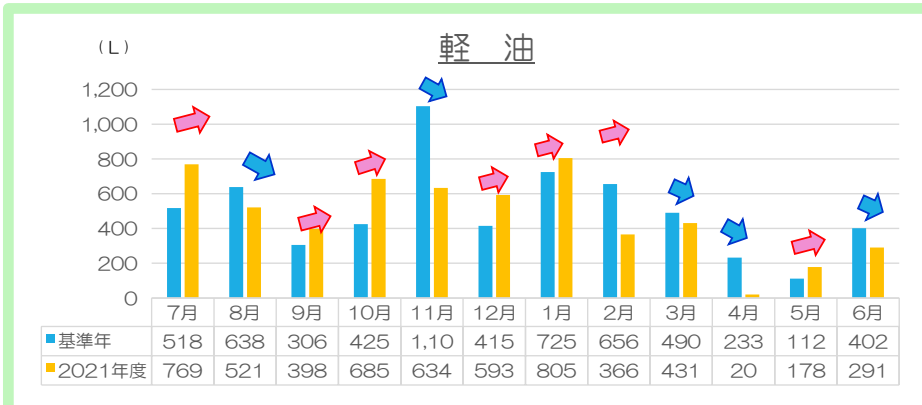
■電力使用量の節減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
目標：20,576kWh 実績：19,965kWh (原資材置き場を含む)	○	目標を達成することができた。グラフを見て比較すると、基準年は原資材置き場の電力使用量が多く、今年度は本社の電力使用量が多い。理由は、基準年に原資材置き場を現場事務所として使用していたが、昨年10月に工事を終え、現場事務所とすることを辞めた。それに伴い、本社の社員が11月から増えたので、本社のみで見るとやや未達成であるが、原資材置き場は大幅達成することができた。次年度の目標は昼休憩時などの不要照明の消灯を引き続き行う。環境管理責任者、環境事務局が中心となり、空調温度の適正化を行う。本社勤務の社員は服装などで温度を調節し、特に冬季の電気使用量削減を目標とする。
・空調温度の適正化 (冷房28℃ 暖房20℃)	×	
・不要照明の消灯	○	
・空調機のフィルターの定期的な清掃・点検	○	
・服装などの工夫 (クールビズ・ウォームビズ)	◎	



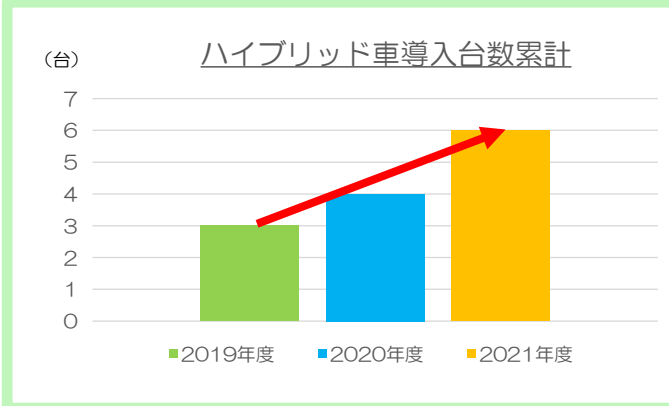
■ガソリン使用量と軽油使用量の節減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
ガソリン使用量 目標：16,068L 実績：19,965L	×	<p>今年度は前年度に続き、2台のハイブリッド車を導入した。約4割の社用車がハイブリッド車となった。基準年と比較するとガソリンの使用量は増加した。遠方の現場が増えたことや社員が増えたことが原因だと考えられるが、使用量をここまで抑えることができたのは、一人ひとりがエコドライブを実施していること、またハイブリッド車導入による使用量削減の効果があると思われる。</p> <p>前年度に建設重機を新たに2台導入した。オートアイドリングストップ機能を搭載し、エネルギー消費の少ないものを導入したことにより、基準年より軽油の使用量を削減できたと考えられる。</p> <p>引き続き全従業員エコドライブを心がけ、現場使用のハイブリッド車導入を次年度も検討する。</p>
エコドライブ実施の継続	○	
リース車の定期点検を実施	◎	
ハイブリッド車の導入(1台/年以上)	◎	
軽油使用量 数値目標：5,964L	○	
エコドライブ実施の継続	○	
燃料消費の少ない建設機械を選定	◎	
排出車両における過積載の監視	○	



2022年1月 ハイブリッド車を導入



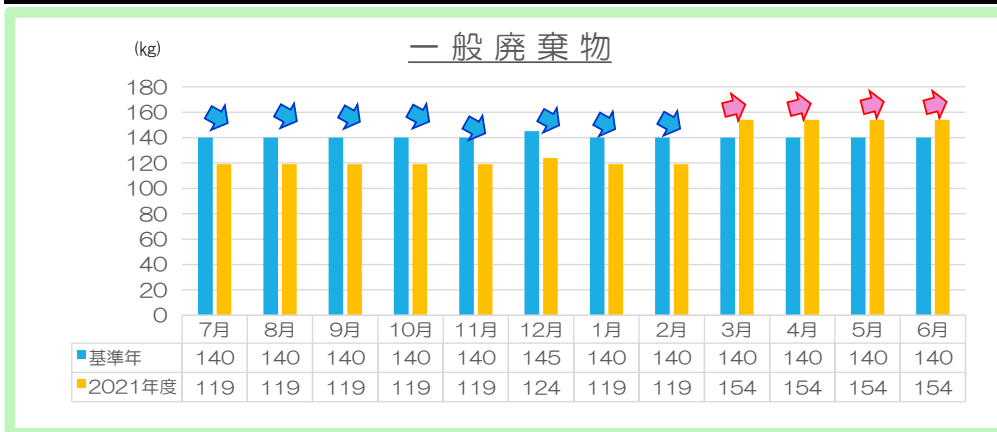
2022年4月 ハイブリッド車を導入



ハイブリッド車の導入

2019年度より毎年度ハイブリッド車1台以上の導入をしてきた。今年度も新たに2台のハイブリッド車を導入し、現場使用車16台中6台がハイブリッド車となった。今後もできる限りハイブリッド車の導入を進めていきたいと考えている。

■一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
目標：1,668kg 実績：1,573kg	○	<p>今年度は新しい取り組みとしてラベルレスのお茶を購入した。本体部分とラベル部分を分別して捨てる手間を省くことができ、資源を守る活動にも繋がっているため社員からの評判が良かった。また、他社の方に取り組みを知ってもらうきっかけにもなっている。</p> <p>前年度から目標にしていた会議資料のパワーポイント化は取り組むことができなかった。全資料をパワーポイント化することは難しいため、一部資料をパワーポイント化することから目標に次年度は取り組む。左記活動とラベルレスのお茶の購入を次年度も引き続き行う。</p>
分別の徹底	◎	
印刷物の残部がでないように最小限に抑える	○	
文具備品は整理・再利用し、長期使用をしている	◎	



ゴミの分別の徹底

全従業員にゴミの分別をお願いしています。資源ごみ、不燃ごみ等も分別しています。

ペットボトル
可燃ごみ
スチール缶

ファイルの再利用

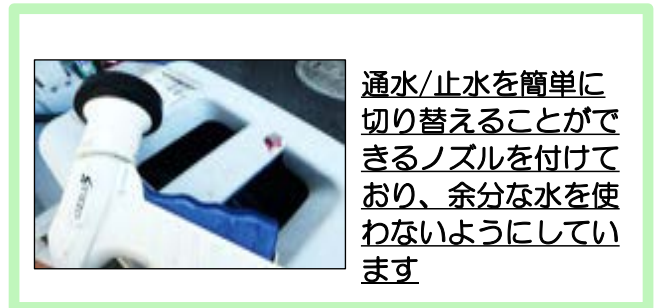
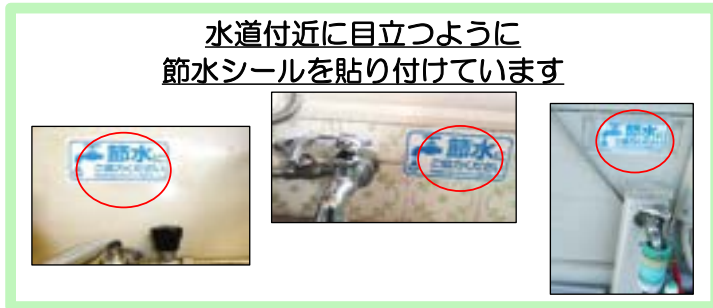
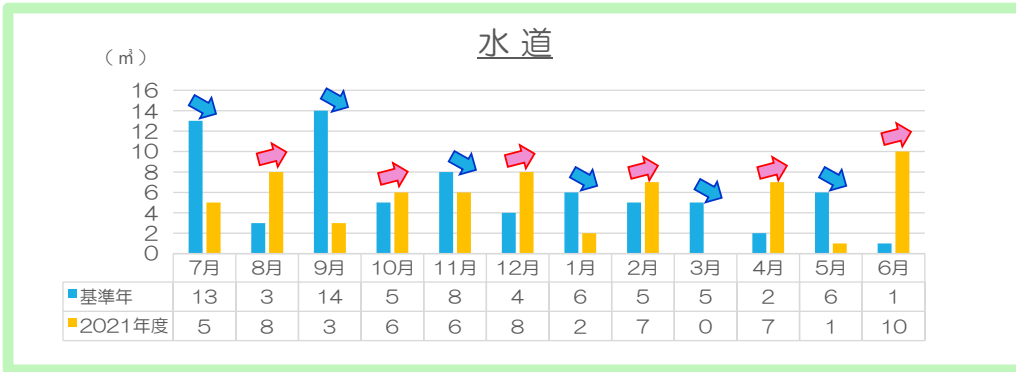
紙ファイルは裏面も使用し再利用に努めています

ラベルレスのお茶を購入

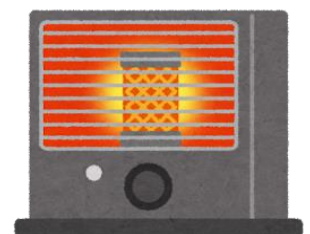
ラベルレスのお茶を購入しています。ラベルを捨てる手間を省くことができ尚且つ、資源を守る活動に繋がっているため今後も継続する

■産業廃棄物の適正管理と建設リサイクルの推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
産業廃棄物（数値目標は参考とする） 目標：3,370 t 実績：3,184t	○	<p>建設業は建設現場によって産業廃棄物の排出量が変わるため削減をするのは難しいことである。そのため、再資源化に重点を置き活動している。産業廃棄物の処理については、業者に委託して行っているため優良認定処理業者の選択や混合廃棄物の処理能力が高い業者に委託し、再資源化率100%を目標に活動した。産業廃棄物の排出量も3,370 t 以下に抑えることができた。</p> <p>現場ではできる限り、資材は再資源化されたものを購入するように努めている。また、ICT施工により資材ロスを低減し、生産性の向上、品質の確保を図っている。次年度も引き続き左記活動を継続する。</p>
建設リサイクルの推進 目標：100% 実績：100%	○	
建設副産物の分別によるリサイクルの推進	◎	
資材の再利用の推進	○	
施工方法や作業方法の見直し、廃棄物の発生量抑制の取組	○	
施工時、作業時における資材ロスの低減	◎	
混合廃棄物のリユース・リサイクル	◎	

■水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
目標：71m ³ 実績：61m ³	○	<p>今年度は目立つように水道付近に節水呼びかけ表示をした。従業員もこれを見て意識した人が多く、基準年より大幅に使用量を下回ることができた。汚れを落としてから洗車は行うようにし、散水ホースには通水/止水を簡単に切り替えられるノズルをつけて使用した。必要な分だけ水を使い、水を出し続けることがないように取り組んだ。蛇口はシャワー型にすることにより、水量を減らす工夫をしました。</p> <p>次年度も引き続き今年度の取組を続ける。</p>
節水呼びかけの表示	◎	
蛇口をシャワー型にして水量を減らす工夫	◎	
洗車は汚れを落としてから行う	◎	
散水ホースにはノズルをつける	◎	



■ガス使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
目標：45.76m ³ 実績：426.00m ³	×	<p>事務所がプレハブであるため断熱性能が悪く、冬季は寒いのでエアコンとガスストーブを併用して使用したところ基準年より大幅にガスの使用量が増える結果となった。各自ひざ掛けをするなどウォームビズにも取り組んだものの、使用量削減とはならなかった。</p> <p>次年度はできる限りガスストーブとエアコンで部屋を暖めたあと、ガスストーブは消して、エアコンのみを稼働させるなどの工夫をして削減する必要がある。</p>
使用湯量の削減	○	
ガスストーブの使用量削減	×	



■現場の生産性向上と環境保全を両立した施工の実施	達成状況	取組結果とその評価、次年度取組内容
目標：100%(全現場取り組む) 実績：100%	○	今年度は昨年度新たに導入した排出ガス対策型低騒音・低振動型建設機械を使用して、地域住民の生活環境を保全しながら施工した。
低騒音・低振動の建設機械を全現場使用する	◎	外来種の繁殖抑制や防音シートを使用して騒音対策を行ったり、環境負荷の少ないRC製品を使用したりと現場でも様々な環境に配慮した施工をしている。
建設廃棄物の再資源化の推進	◎	建設廃棄物の再資源化率は100%を目標にし、現場で使用する資材は再資源化された製品をできる限り使用する取り組みも行っている。
防音シートで騒音対策	◎	旭川維持工事では、アユ産卵場の造成や除草工で除草範囲外にあたる捨石上の幼木伐採を行った。また小型携行缶を使用したり、回遊路の止めコンクリートの形状を丸みのある構造にすることで歩行者が安全に利用することができるよう周辺環境に配慮した施工も
環境負荷の少ない資材の調達	◎	行っている。
全現場ICTで施工する	◎	次年度も環境に配慮した取り組みを続ける。



**排出ガス対策型
低騒音・低振動型
建設機械を導入しています**

排出ガス・騒音・振動を防止することにより住民の生活環境を保全しています。

旭川におけるアユ産卵場造成

- ・岡山大学
 - ・岡山県農林水産総合センター水産研究所
 - ・旭川南部漁業協同組合
- 上記の方々と協力し、天然アユの資源増大に向けて旭川アユ産卵場造成に取り組みました。



中国 Light ICTの活用

杭ナビを使用することで測量作業においてプリズムを持つ作業員が不要となります。そのため、現場での位置出し作業の省力化・測定時間の短縮化により測量及び出来形管理を円滑に行うことができました。資源を最小限に抑えることができ、品質の向上、効率のよい施工に繋がりました。



手動ホースポンプだとすぐに止まらず吹きこぼれを起こしやすい。

腰ベルトに取付けて持運びが容易である。



ボトルサイズでノズルが付いているので給油がしやすく、適量ですぐに止めることができる

**周辺環境への配慮のため
小型携行缶を使用しています**

2L携行缶から草刈機への現場給油は持運びも不便である上、給油時に手動ホースポンプを使用するため吹きこぼれを起こす可能性が高いのが現状でした。

打開策として、小型携行缶(500ml)に入れかえて使用することで持ち運びも便利になり、作業現場に燃料をこぼすことなく作業ができるようになりました。

11. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

環境関連法規遵守については、当社に適用される環境関連法規及び条例の一覧を作成し年1回遵守状況を確認し必要に応じ変更・改善指導を行っております。
本年度、自社で遵守状況を確認した結果、違反・訴訟はありません。
また関係当局より違反などの指摘は過去3年間ありません。

■当社に該当する主な環境関連法規/条例

適用される法規制	適用される事項	遵守状況
廃棄物処理法	委託基準・保管基準・マニフェスト交付 多量排出事業者の報告・産業廃棄物管理票交付等状況報告書等の提出	○
資源有効利用促進法	特定再利用業種、指定副産物等の基準に適合した措置	○
建設リサイクル法	分別解体等及び再資源化等の実施義務 発注者への再資源化等完了報告と記録の保存 特定建設資材と指定建設資材廃棄物の再生資源利用実施書	○
建設機械に関する規程	排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程 低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程	○
家電リサイクル法	家電4品目（エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機） 処理費用の支払い	○
排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規程	対象事業が公共工事の場合で自社の建設機械を使用する場合は 排出ガス対策型建設機械を使用する	○
低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程	対象事業が公共工事の場合で自社の建設機械を使用する場合は 低騒音建設機械の選定(国土交通省に指定されているもの)	○
フロン排出抑制法	フロン類使用の定期点検・記録・同保存・漏えい防止等 適切場所設置 未修理充填禁止	○
消防法 (危険物のみ)	消防設備・消防訓練の実施	○
騒音規制法	特定施設の事前届出・地域別騒音基準の順守・規制基準の順守	○
振動規制法	特定施設の事前届出・特定建設作業の事前届出・規制基準の順守 地域別振動基準の順守	○
水質汚濁防止法	油及び有害物質の流出事故時の措置と届出・有害物質の使用特定施設 貯蔵指定施設の構造基準の順守・排出基準の順守	○

フロン排出抑制法により
建設重機のエアコン点検を3ヶ月に
一度実施しています



12. 緊急事態対応訓練の実施

緊急事態の想定：火災の発生	
■実施日：2022/4/30	■実施場所：原資材置き場
■参加者：7名	■実施内容： 通報訓練、消火訓練、避難訓練
■使用する手順書：火災対応手順書	■手順書の有効性： <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
■評価： 通報・連絡の経路を確認し、初動対応の重要性を共有できた。人命優先で避難経路を作成したうえで、トラックや油圧ショベル等の移動手順を決定し、周知した。	
■実施状況の様子	
	
火災訓練座学	火災訓練

緊急事態の想定：堤防流水時	
■実施日 2022/4/30	■実施場所：旭川河川敷
■参加者 奥野組 12名 協力会社 4名	■実施内容： ①堤防流水時の排水ポンプ車訓練 ②河川災害パトロール訓練
■使用する手順書：排水ポンプ車訓練実施手順書	■手順書の有効性： <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
■評価： ①堤防流水時の排水ポンプ車訓練は毎年行っているため、手順を理解した者が新人に指導する形で行った結果、新人も手順を理解していた。 ②タブレットを使って位置情報と危険箇所を報告するための操作手順と報告方法を覚えた。	
■実施状況の様子	
	
①堤防流水時の排水ポンプ車訓練	②河川災害パトロール訓練

13. 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2022年8月4日

2021年度のエコアクションに取り組むにあたり、環境負荷の削減、環境保全を考えた施工、社員の健康と地域の安全を守る企業を目指してまいりました。建設現場における無事故無災害はもちろん健康経営を掲げ安全衛生活動に積極的に取り組みました。環境にたいする活動についても丁寧に活動データの収集と分析、活動記録をまとめることで現状がより見える化されました。現実と向き合い目標達成に対し厳しい課題がありますが、一人一人が考えて行動できるような体制が育ちつつある成長を感じる1年でした。引き続き会社の力や価値の向上できるように活動して続けていきたいと思えます。

国土交通省中国地方整備局の工事評価点 80 点以上の獲得、黒字経営の維持、健康経営優良法人の認定取得、岡山県 BCP 認証取得、レジリエンス認証継続、SDGs 活動の検証、10 年ビジョンの策定などに取り組みました。災害復旧工事が落ち着き、建設市場が落ち着きだした今、経営体制を見直し、経費の削減、業務の効率化と働き方改革の推進などに引き続き取り組みサステナブルな社会の一員として引き続き取り組んでいきます。

代表取締役 奥野一三

■環境経営方針 指示なし 指示あり

注記：環境行動指針では、具体的な指針と概念的な指針が混在しているので表現方法を今一度検討する必要がある

■環境経営目標・計画 指示なし 指示あり

■実施体制 指示なし 指示あり

注記：データ収集など負担がかからないよう体制の検討を行う必要がある

14. 今年度の奥野組の取り組みと紹介

<h4>SDGs</h4>  <p>私たちは、持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。SDGsで掲げられた17の目標に取り組みます。</p>	<h4>トモニン</h4>  <p>仕事と介護を両立する社員を応援します。社内リーフレットの配布、必要に応じて介護休暇や介護休業等の研修を行っています。</p>	<h4>健活企業</h4>  <p>従業員の健康を第一に考え、長く健康に過ごすことができるよう、経営者が従業員への健康づくり活動を積極的に行う企業です。</p>
<h4>おかやま子育て 応援宣言企業</h4>  <p>子育てする社員を応援します！男女ともに育児休業、育児休暇や看護休暇が取りやすい環境を整備しています。</p>	<h4>タニザワエコアプローチ参加</h4>  <p>使用済み保護帽を回収する際に地球上のCO2排出削減と、限りある資源の有効活用に繋がる取り組みです。</p>	<h4>令和3年度 工事成績優秀企業認定</h4>  <p>国土交通省 中国地方整備局長より、令和3年度 工事成績優秀企業に認定されました。</p>



おかやま建設企業ライブへ参加(2022年1月18日)

土木・建築系学科に在籍する高校生と建設企業をオンラインで繋ぎ、意見交換により、建設産業が将来の職業を考える際の選択肢となるよう動機付けを図ることを目的として開催されました。仕事内容について入社3年目の若手技術者から説明を行いました。その後の質疑応答の時間では、時間が足りないほど質問してくださいました。仕事内容に関する質問だけでなく、働き方についての質問が多数寄せられ、自分に合った「働き方」ができる企業を今後学生たちは企業を選ぶ基準の一つにしていくのだらうと思いました。高校生の方と関わることが出来る機会は少ないので貴重な時間となりました。



出前授業(2021年10月1日)



岡山市立城東台小学校の6年生を対象に「建設の仕事」をテーマに授業を行いました。
建設の仕事はつくるだけではなく地域の皆さんを守る役割があることをお伝えしました。
シンボルタワー作りでは、皆さん盛り上げてとても楽しそうにタワーをつくってました。一番高いシンボルタワーはなんと97cmでした！
建設の仕事はたくさんの人が関わって一つの「もの」をつくっているということが伝わったと思います。



おかやま子ども応援人材バンク(2022年1月21日)



おかやま子ども応援人材バンクの活動の一環として岡山市立幸島小学校6年生を対象に授業を行いました。
建設業の歴史を説明し、身近なお仕事であることをお話ししました。
また、皆さんが育ってきた町の変化を地図で見ながら勉強しました。
生徒の皆さんは興味津々にお話を聞いてくださり、メモを真剣にとってくださいました。少しでも建設の仕事に興味をもってくだされば幸いです。



工事現場見学会(2022年6月7日)



柳井原小学校の1, 2年生を対象として、令和3年度小田川付替柳井原地区第2築堤他工事の工事現場見学会を実施しました。
ドローンの飛行映像をリアルタイムで映し現場の様子を見たり、クレーン車を見学したりと建設の仕事を知ってもらうきっかけになったと思います。若手社員が工事や仕事のことについてO×クイズやスピーチを行い、生徒のみなさんはとても楽しそうでした。
今回実際に現場を間近で見ってもらうことでより建設の仕事の大切さ、大変さを感じてもらえたことと思います。





DESIGN GOALS(2022年6月8日開始)



デザイン・ゴールズプロジェクトに参加することにしました。2022年6月8日より活動を開始しています。障がいのあるクリエイターの方と岡山情報ビジネス学院の学生、デザインゴールズプロジェクトの事務局の方とともに同じ目標に向かって作品を作りあげられることがとても楽しみです。旭川の河川敷で使用している建設機械にデザインをお願いすることにしました。創業76年の歴史の中で道路や河川工事をとおして岡山の街をつくり守ってきました。当社が手掛ける工事は、持続可能な社会を実現するために大きな役割があると位置づけています。建設機械を使う人見ている人が楽しくなるデザインに変えることで、私たちの仕事は街を守る大切な使命を担っていることをより多くの方に知ってもらおうきっかけとなると思っています。次年度も引き続き活動します。

令和4年1月 おかやまプラスチック 3R宣言事業所登録



わが社は、プラスチック3R（排出抑制、再使用、再生利用）を宣言する事業所として登録しました。
従業員やお客様のプラスチックごみは洗浄、分別を行うのはもちろんのこと、不要なプラスチックを購入することも控えています。



令和4年2月 岡山県BCP認定取得



岡山県BCP認定を取得しました。
最高ランクの星三つ★★★を獲得しました。
わが社は社員、家族の安全を確保します。
そして地域の安全確保とライフラインの早期復旧に取り組み、日頃から行っている安全への取組や教育・訓練が緊急時に生かせるよう事業継続計画(BCP)に今後も取り組みます。環境変化に対して強靱で、地元に根ざした企業を目指します。

令和4年3月 健康経営優良法人2022認定取得



今年度初めて健康経営優良法人として認定されました。
社員の心と身体の健康をサポートし、社員も会社もともに幸せを目指す企業として活動を続けていきます。
今後もブライト500の取得を目標に活動をすすめてまいります。
50人未満の企業ではありますが、次年度にはストレスチェックの実施ができるよう準備を進めています。